

六世 中村歌右衛門展

花と夢をわすれぬこと

二〇一四年 三月二十五日【火】— 四月二十五日【金】
早稲田大学演劇博物館 六世中村歌右衛門記念特別展示室

会期中の休館日 ● 四月十六日【水】

開館時間 ● 十時から十七時まで（火・金は十九時まで）

主催 ● 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
協力 ● 松竹株式会社・(社)日本俳優協会

入場無料



五代目中村歌右衛門展

六世中村歌右衛門展

六世中村歌右衛門展

中村歌右衛門展
父から受けついだ役々

中村歌右衛門展

六世中村歌右衛門展

2009年 3月25日(水)~4月29日(火)
早稲田大学演劇博物館 六世中村歌右衛門記念特別展示室





六世 中村歌右衛門展

花と夢をわすれぬこと

演劇博物館では、年度末の恒例として「六世中村歌右衛門展」を、二〇〇五年以来、開催してまいりました。十回目を迎える今回をひとまずのシリーズ最終回として、今回はこれまでの展示を振り返りつつ、改めて名品揃いの展覧といたします。また、このたび新たに中村梅玉大からご寄贈いただいたアルバムを初めてする新収品の展示もごさいます。

申すまでもなく、六世中村歌右衛門（一九一七〜二〇〇二）は、戦後歌舞伎の頂点に君臨する名優でありました。女形ひとすじの人生を貫き、日本の芸の道を守り通し、かつ新しい道を拓きつつ、その芸の力は国内外の幅広い芸術分野に大きな刺激を与えてきました。

これまでも展覧してまいりましたように、数多い当たり役、年々歳々その時々での上演、歌右衛門代々のなかでの六世の位置、父五世から継承した役々、新作と復活狂言、歌舞伎座を頂点とする劇界のなかでの立場、多くの観客に愛されてきた歳月、じつに多彩で多様な観点から六世歌右衛門は見る事ができます。これまでの各回を、多くのみなさまが楽しみに、待ちかねてご来館下さったのも、歌右衛門と共にあった時代へ寄せる思いの重さと、受け止めてまいりました。そうした、時間を積み重ねて後の世に伝えてゆく現場の空気を伝える展示品の数々から、新たに歌舞伎の世界、日本の芸の道に出会うことができれば、この上の喜びはありません。

二〇〇一年三月三十一日、万葉の桜に雪の舞った日に歌右衛門をおくって以来十三年、昨年度の歌舞伎座新開場を大きな節目として、歌舞伎界はさらに新たな世代を迎えようとしています。大いなる歌右衛門の時代をふりかえることが、未来の歌舞伎の糧ともなるよう、これからも機会を設けてまいります。

「六世中村歌右衛門を語る」

2014年4月17日(木) 大隈記念講堂 小講堂 [定員300名]
14:45~16:15 [14:15開場]

講師：渡辺 保氏 (演劇評論家)

聞き手：児玉竜一 (演劇博物館副館長)

入場無料
予約不要



表画：『源文章』夕霧（昭和41年）／演劇博物館「中村歌右衛門展」チラシ 裏面上：六世中村歌右衛門の役々 中：歌右衛門自筆色紙より「花と夢をわすれぬこと」
裏面下：（左から）『切支丹通成寺』劇子の衣裳／第三回舎合プログラム／襲名披露特賞の雑誌／襲名披露配り扇／『伽羅先代萩』政岡の宮迫



同時開催

『今日もコロッケ、明日もコロッケ
——“益田太郎冠者喜劇”の大正展』
3月1日(土)～8月3日(日)
常設展示室「近代」コーナー

同時開催

『サミュエル・ベケット展
——ドアはわからないくらいに開いている』
4月22日(火)～8月3日(日)
演劇博物館2階

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 TEL: 03-5286-1829
URL: <http://www.waseda.jp/enpaku/> MAIL: enpaku@list.waseda.jp
早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
Waseda University The Tsubouchi Memorial Theatre Museum